

所管事務調査報告書

令和元年6月17日

洞爺湖町議会議長 大西 智 様

総務常任委員会
委員長 五十嵐 篤 雄

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

記

○所管事務調査

- 1 調査事項 避難所施設・防災備蓄及び災害対応について
- 2 調査日 令和元年6月4日（火）
- 3 出席委員 五十嵐委員長、今野副委員長、越前谷委員、大久保委員、石川委員
- 4 説明員等 企画防災課 高橋課長
- 5 調査結果

総務常任委員会では、新たな組織のもと最初の所管事務調査として昨年のブラックアウトの体験から、避難所施設と防災備蓄の現況について現地調査を実施し、その後の災害対応について説明を受けた。

また、町内中学校2年生48名による、避難所開設体験学習会が同日に開催されていたことから、避難所運営ゲーム（HUG）を見学することができた。

噴火災害を経験している当町にとって防災意識を常に持つことの重要性からこの防災学習は大切と思われる。

①母と子の館の現地調査

町内の避難施設はすべての災害に対して安全な場所とは限らないことから災害種別に応じた避難所の指定を行っている。当該避難所は、昨年のブラックアウトの際には避難所として開設された。畳の部屋の活用が期待できることから選定された。30名ほどの利用があり食事も提供された。この部屋は最大60名の利用が可能である。

②地域交流センター（健康福祉センター別館）の現地調査

この施設は福祉避難所として指定されている。このことから備蓄庫の中には飲食料、生活必需品が用意されている。離乳食などの消費期限のあるものは、子育てイベント等で活用するなどして適宜更新を行っている。この施設は62

名の利用が可能である。また、町内には洞爺ふれ愛センターが福祉避難所として指定されている。

③防災備蓄計画について

今年度より、北海道の交付金事業（地域づくり総合交付金）により防災備蓄品を整備するために、平成31年1月に防災備蓄計画を策定した。この計画の概要について次の説明を受けた。

- ・ 備蓄の主体とその割合
- ・ 食料、生活必需品、避難所用資機材の備蓄品目
- ・ 備蓄物資目標数量
- ・ 5年間の備蓄整備計画

以上、調査を実施した中で委員会としての指摘事項は次のとおりである。

- ・ 現地調査をした2カ所以外にも、洞爺総合支所、洞爺温泉支所、とうや湖コミュニティセンターと5カ所で発電機の設置が予定されているが、速やかに設置されたい。
- ・ 防災行政無線が聞き取りにくいことから、広報車の活用や戸別受信機の設置（本町地区）などいろいろな手段を使って対応いただきたい。
- ・ 外国人の避難対応として、多言語に翻訳できるシステムの導入を検討されたい。
- ・ 備蓄品の5カ年整備計画で全く備蓄のない品目については、一定数量を初年度から揃えることが望ましい。
- ・ 洞爺地区にある旧商工会館は備蓄庫として活用する計画になっているが、福祉避難所以外では備蓄は防災センター1カ所となっている。運搬の事を考慮すると想定できない災害もありうることから分散備蓄が望ましいと考える。早期に進めていただきたい。